

第 16 回女性文化研究奨励賞の選考について

山本咲子氏

『女性非正規雇用者の生活の質評価—ケイパビリティ・アプローチによる実証研究—』明石書店

(1)選考経過および選考結果

「昭和女子大学女性文化研究奨励賞」は、卒業生を含む昭和女子大学関係者に対し贈呈するものである。

第 16 回研究奨励賞は、2023 年中に刊行された著作が対象であり、単行本 1 点が選考対象となった。2024 年 2 月 13 日に開催された第 1 回研究奨励賞選考委員会で検討された後、4 月 11 日開催の最終選考会を経て、山本咲子氏（新潟大学講師、昭和女子大学女性文化研究所特別研究員）の著書『女性非正規雇用者の生活の質評価—ケイパビリティ・アプローチによる実証研究—』（明石書店、2023 年 11 月 14 日）に、「第 16 回 昭和女子大学女性文化研究奨励賞」を贈呈することに決定した。

(2)受賞作の選考理由

本研究の目的は、第一に、「ケイパビリティ・アプローチを活用するための研究方法を設計し、その一例を示し」て「生活経営学の発展に寄与すること」、第二に、「ケイパビリティ・アプローチを用いて未婚の女性非正規雇用者の生活の質を分析し、女性正規雇用者との雇用形態別の比較を行う」ことで、「未婚の女性非正規雇用者が生活において必要とする機能の内容とその達成状況」と、彼女らが「生活困難に陥る原因を、「生活資源」と「その生活資源を利用する能力」の不足という観点」、加えて「機能を選択する自由が非正規雇用者であることによってどのように制約を受けているのか」を明らかにすることである。本書の受賞理由を、以下三点から述べる。

第一に、若い女性の非正規雇用者に的を絞った調査研究である点である。「未婚の女性非正規雇用者の生活困難」は注目されない、それは「女性に男性に養ってもらうもの」というジェンダー規範で成り立っている現在の社会保障では、困難を抱える女性たちが保障対象にならないからだ、著者は指摘する。こうした社会的な不備を認識改善するためにも、本研究は重要な観点を与えている。

第二点として、生活測定指標にケイパビリティ・アプローチを用いた点である。これは、「生活資源を用いて達成しうる機能」に焦点を当てたものであり、従来の生活測定指標の問題点を回避し、対象者の持つ「多くの情報に配慮できる概念枠組」が提供されるという利点から選択されている。

第三点は、インタビューにおける「語り方」に注目し分析するという方法である。主体的に語られた非正規・正規両者のケイパビリティを比較検討した結果、賃金差の他に、これまでの生活測定指標では明らかにし得ない機能の達成可能性における「脆弱性」が指摘された上に、そのような脆弱性を解決するための支援策が提案されている点は優れた成果である。

女性の主体的生活のさまざまな問題点に気づきを与え、問題解消への努力のあり方を探るものであり、研究の更なる発展を選考委員一同期待したい。